

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア下呂		
所在地	岐阜県下呂市森1173番地		
自己評価作成日	令和3年9月10日	評価結果市町村受理日	令和3年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192800015-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づき、地域に根ざすやさしさ、やすらぎ、信頼をモットーとし、職員一人一人が意識を持って介護サービスに努めています。昨年からのコロナの影響で、面会、外出などが制限され、窮屈な生活となっていますが、施設でできる範囲で、恒例の行事や施設内や庭での散歩などをおこない気分転換をおこなっています。また利用者が残された力を発揮し、おやつ作りや洗濯物の片付けなどを手伝っていただき、できる楽しみをみつけて、いきいきとした生活ができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は温泉街の高台にあり、天然温泉の浴室や居室の窓から、四季折々の雄大な景色が見える環境にある。同法人の多機能介護施設の一つとして運営し、人材不足や防災訓練など、様々な面で相互に補い合える強みがある。また、法人の診療所や歯科診療の訪問医療を受けることができ、すぐ近くの総合病院とも医療連携を行っている。職員のチームワークの良さが感じられ、常に向上心を持ちながら、利用者が笑顔で暮らせるよう支援している。管理者は、子育て中の職員及び産後に職場復帰をする職員のために、働き易い職場環境作りに努めており、勤務年数の長い職員が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、日々の介護をその理念に照らし合わせ、常日頃より意識して介護にいかせるようにしている。	理念は「地域に根ざす、優しさ・安らぎ・信頼」とし玄関、各ユニットのリビングに掲示している。職員会議のレジメにも記載し職員の意識付けをしている。地域に根ざした介護事業所として、地域の住民に受け入れられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通常であれば、ボランティアの方の訪問を依頼していたが、今年度は感染対策のためできていない。日常的な交流は困難になっているが、できる範囲で面会や訪問の受け入れをおこなっている。	コロナ禍により、踊りや傾聴ボランティア等の受け入れを自粛しているが、太鼓のボランティアは人数を縮小し、リモートも活用しながらの演奏を楽しんでいる。以前は、支援学校の生徒の訪問もあったが、今は中止している。地域の清掃活動には職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域へ情報を公開していたが、今年度はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議などで情報を公開し、理解を得るようにしていたが、今年度は一度も推進会議ができていない。2か月に1回、施設入居状態、活動報告、ヒヤリハット報告を文章にて通達している。	コロナ禍以降は、メンバー揃っての運営推進会議を行っておらず、書面報告としている。運営推進会議の議事録は、参加予定者や全家族に便りと一緒に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議ができていないが、電話等で連絡をとり連携をとっている。	行政とは、ワクチン接種について、随時連絡を取り合い、連携しながらスムーズに実施することができている。新型コロナに関する研修はリモートで行い、参加できなかった職員は、ソーシャルメディアを活用しながら、県から配信される研修内容を確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のテキストやDVDによる勉強会などで理解を深め、定期的委員会などでも拘束のないケアを目指し取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を定期的開催している。委員会では利用者の状況を検討し、対策を話し合っている。やむを得ず拘束が必要な場合は、家族の同意を得て、短期間での対応を目標に取り組んでいる。事故予防対策としてセンサーマットを設置した事で、職員がすぐに対応できるようになった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所にてテキストやDVDにて学習している。表皮剥離やアザなどの発見を報告書の記載のもとに原因や対策などを考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者に成年後見制度を利用されてみえる方はいないが、機会があれば研修などをおこない理解を得る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より契約内容を確認していただき、契約時には納得されるまで説明をおこなっている。また契約内容の変更時は文書にて郵送し承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望、苦情などを電話や面会時に聞いていただけるようにしている。そのつど職員間で話し合うようにしている。	毎月、事業所の活動報告と共に、利用者の写真を掲載した通信「あんきやよ」に、担当職員による近況報告を加え、家族に送付している。コロナ禍の為、家族の訪問が思うようにできない時は、電話で意見や要望を聞いたり、利用者の受診同行の際に、待合室等で話を聞いている。	事業所は、今までにも便りや写真を家族に送り、絆を深められるよう取り組んでいたが、十分に伝わっていない場合がある。今後は、より積極的に情報を発信し、更なる伝達手段の工夫にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議は今年度数回しかできませんでしたが、通達事項は回覧したり、要望や意見などはラインなどを使用している。	管理者は職員不足の時にも柔軟に現場に入っており、普段から職員の意見や要望を聞いている。個人的な意見や相談事なども事務所で聞くことがあり、その都度、対応している。話しやすい雰囲気作りに努め、職場環境を整えながら、職員の定着率につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人が人事評価制度を導入し、給与等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修が参加できなく、休憩時に各自DVDにて研修し、レポート提出をしたり、スマホにて研修できる取り組みをしている。実務者研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインケアマネ会議などに参加して、情報の交換をしている。コロナ禍にて交流はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面談し、要望や不安なことを聞き、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族ともに入居前より意見や不安な事を聞き、要望に添ったサービスができるように関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とよく面談し、希望や要望をよく聞き取り、初期の的確なサービスができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、やりたい事をやっていただき、共に支えあう事ができる関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月郵送している広報誌に近況報告をしたり、写真を同封して、ご本人の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において面会が制限されている状況の中で触れ合う事は困難であるが、感染対策をおこなった上でご家族や本人の意思を尊重し面会を実施している。また電話やリモートも利用している。	以前は家族や友人が気軽に面会に来ていたが、現在は感染拡大防止のため、面会制限を設けている。新たな試みとして、先月からリモート面会を始めている。毎月訪れるパンの移動販売は、顔見知りの販売員もおり、利用者も楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の状態を把握して、利用者同士が上手関わる事ができるように関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に相談できるよう、相談窓口になれるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人が日々の会話、コミュニケーション、表情から本人の思いを把握、推察するように努め、カンファレンス等で情報交換し共有して支援している。	職員は、普段の生活支援の中で、利用者と世間話をしながら、本人の思いや意向を把握しよう心がけている。会話の際には、一方通行にならないよう、ゆっくりと利用者の話を聞き、意思疎通が難しい利用者には、表情や仕草からも思いを汲み取り、本人本位の暮らし方の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族、関係者からの聴取も含めて情報収集して把握に努め、今後も継続したサービスができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で小さな変化にも気づき、職員同士でカンファレンスや記録などで情報交換をおこなって状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや職員間での会話の中での意見交換やケアマネとの担当者会議において現状にあった支援ができるように努めている。	介護計画は、利用者や家族の意向を確認しながら、介護支援専門員が中心となり、看護師、歯科衛生士、職員等が話し合っって作成している。介護日誌や介護支援経過を参考に、本人が出来る事に目を向けた計画を作成し、課題が見つければ柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援ができているか、記録や申し送りノートを活用することで職員間の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	傾聴や意見交換により抽出した本人、家族の希望には柔軟に対応し可能なかぎり希望に沿った支援をおこなえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナ禍において地域の方との交流ができなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を主治医としている。送迎の支援や、受診に付き添い主治医との関係を築き、状態の報告や、緊急の場合の対応を依頼している。	従前のかかりつけ医を継続している利用者もあるが、ほとんどの利用者が、法人内にあるクリニックの協力医を選択している。定期的に往診があり、看護師も職員として配置されている。緊急時には、職員が病院へ付き添い、利用者の状況を伝えるなど適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康チェックをおこない、異常の早期発見や、褥創予防、体調管理を行っている。夜間も看護師が電話対応や緊急時の支援もおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換をこまめにおこない、協力体制を整えている。入院時には看護師も付き添い今後の治療方針や入院期間の話をきいたり、退院についても、医療機関と家族との調整をおこないながら、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の特徴やできることを説明したうえで、本人家族が希望され納得できる終末期がむかえられるように話し合いを持ち支援している。	重度化や終末期に向けた対応指針についてを契約時に説明し、家族の同意を得ている。段階に応じて関係者で話し合い、事業所として医療的措置のない自然な看取りを基本として支援している。家族は居室での宿泊が可能であり、職員は、最後まで利用者が家族と一緒に穏やかに過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修会が現在できていないが、体調の変化に十分気を配り、記録や申し送りをおこなっている。マニュアルにより緊急時の対応を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は災害について施設内で研修をしたり、備蓄品の場所や種類などを再確認したりした。また停電時や職員が出勤できないときの体制作りなどをおこなっている。	今年度は感染予防対策として、法人内で災害対策を行い、消防署との防災訓練は来年2月に実施予定である。数年前に体験した台風による停電を教訓として、懐中電灯やランタンを整備した。DVDメディアも活用しながら職員研修を行った。DVDメディアも活用しながら職員研修を行い、災害時の行動等について意識強化を図っている。	コロナ禍の今、全体での災害訓練の実施が難しい状況である。職員の役割分担を把握し、避難方法と誘導方法、避難経路を利用者と共に確認しながら、グループホーム独自の避難訓練を定期的に行われる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や性格、認知症の症状の違いを理解し、その方にあった言葉かけをおこなっている。個人の尊厳を理解し、プライバシーを損ねない対応ができるよう努めている。	地域で暮らす職員も多く、利用者に合わせて方言を使ったり、昔からの呼び方で声かけをしているが、決して馴れ合いにならないよう心がけている。常に人格を尊重し、誇りを損ねない対応と言葉遣いを心掛けている。職員は定期的な接遇研修で、より良いケアについて学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員により思いや希望を表す場を設けて、自己選択の機会を提供し、御本人が思いを表現しやすいように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者との会話や表情などで、その日の思いなどを聞き出し希望に沿って生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容では、本人好みの化粧水やクリームを使用し、衣類は本人と一緒に決めるなどし、また季節に応じたものを着ていただくように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつを月1回程度開催し、一緒に準備して作っている。食事環境や好みにも気を付けている。包葉寿司や季節の行事食の時はできる範囲でお手伝いの参加していただいている。	利用者の嚥下状態に合わせた食事が厨房から運ばれ、職員が盛り付けし、提供をしている。季節の行事に合わせて、流しそうめんや屋台料理の提供をバイキング形式にしたり、誕生日ケーキは盛り付けを利用者に手伝ってもらうなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し状態把握をしている。季節に応じて水分摂取量も調節している。食事量の少ない方は主治医にも相談し、栄養剤などの処方依頼したり、食事形態をかえたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより毎食後個々に合わせた口腔ケアをしている。口腔内の異常や義歯の調整は歯科衛生士に依頼し、対応している。		

岐阜県 グループホーム ファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録をおこない、訴えのない方でも誘導をおこなって、トイレでの排泄ができるよう支援している。	トイレでの排泄を基本に、声掛けや誘導を行っている。夜間は、個々の状態に合わせたパッドや紙オムツ、ポータブルトイレを設置する場合もある。残存機能維持と生活リハビリのため、トイレへは手すりを使っての歩行を見守り、戻る時は車イスを使い支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンの把握により体調や食事摂取量を考慮し、下剤の使用や食事量の調整をしている。また日中に歩行訓練など定期的におこなえるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉入浴を楽しんでいただいている。言葉かけや促しのタイミングや方法に気をつけて支援している。	個浴の浴室があるが、2階には温泉棟があり、利用者は好んで大浴場を利用している。週に2～3回の入浴を基本とし、同性介助の希望にも応えている。近くの旅館から貰ったバラの花や、庭で取れた柚子を浮かべるなど、季節の湯を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備により居室で快適にすごせるように配慮している。日中も休息時間がとれるように状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している内容や、効果など看護師や薬剤師に聞いたりしている。マニュアルのもと確認作業の徹底をおこない誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の意欲や能力に合わせて可能な事を見守り、声掛けをして支援している。毎月行事を計画し楽しみをもっといただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方の外出がむづかしい中、季節や天候により、敷地内の散歩を実施している。おやつを庭で提供したりしている。	外出を自粛していた際は、併設施設を含めた建物内の歩行、ケアビクスや平行棒を取り入れた運動等、職員は利用者の下肢機能が低下しないよう支援していた。新型コロナウイルス感染症の予防対策をした上で、季節の花見やドライブに出かけ、気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホーム ファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や訪問パン屋、日用品の購入など本人の選択により購入し、職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人ができる範囲で手紙や電話を自由に利用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃により清潔保持をしている。四季を感じるができるように季節にあわせた作品を飾ることや、行事の写真などを掲示し楽しんでいただいている。庭に咲いている花などをつんでいただき花瓶にさしてもらっている。	感染予防、感染拡大防止のため、換気扇は常に回し、定期的に窓を開けて自然換気も行っている。一階と二階の階段には昇降機が備え付けられており、入浴時や移動が必要な時に使用している。利用者はリビングで洗濯物を畳んだり、職員と一緒に新聞紙で入れ物を作るなどの作業を手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士で過ごせるように席の位置など配慮している。他の事業所のフロアには感染対策をとり時々面会に行ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の希望のものを居室に配置している。写真や作品を飾り、居心地よい空間になるように工夫している。	感染対策の為、タブレットにて動画で確認となった。もともと温泉旅館であった建物であり、障子や縁側がある和室と洋室がある。居室には床の間がある部屋もあり、仏壇を自宅から持ってきたり、鏡台を持ち込む等、好みの部屋となっている。毎日、清掃専門員による掃除が行われ、居室の清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止をはかり、安全な環境で過ごせるように本人の身体状況に応じてベットの位置や家具の配置を工夫したり、手すりの設置をおこなっている。		